

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	日本語表現法応用 I						
科目区分	リテラシー科目	単位数	1単位	開講時期	2年次前期		
必修・選択の別	【建築工学コース:必修科目】【建築コース:必修科目】【デザインコース:必修科目】						
担当者	萬川正勝						
授業の到達目標 (シラバスから)	教材:名古屋大学日本語表現研究会著『日本語表現法 書き込み式』(三弥井書店) ・日本語の特性を正しく理解し、使うことができる。 ・日本語の文法を理解し、正しく使用できる。 ・論理的な表現とは何かを理解し、記述・発表できる。 ・上記のような項目を学習し、日本語表現の応用力を修得する。						
日程と内容	第1回:講義概要および履修心得・学習方法 第2回:話し言葉と書き言葉 その1 第3回:話し言葉と書き言葉 その2 第4回:書き言葉の技能 基礎 文の組立 その1 第5回:書き言葉の技能 基礎 文の組立 その2 第6回:書き言葉の技能 基礎 文の組立 その3 第7回:書き言葉の技能 基礎 呼応する言葉 第8回:書き言葉の技能 基礎 文のつなぎ方 第9回:書き言葉の技能 基礎 意味の限定 その1 第10回:書き言葉の技能 基礎 意味の限定 その2 第11回:書き言葉の技能 基礎 言葉の順序 その1 第12回:書き言葉の技能 基礎 言葉の順序 その2 第13回:書き言葉の技能 応用 要旨 その1 第14回:書き言葉の技能 応用 要旨 その2 第15回:まとめ 定期試験 第16回:前期まとめ						
成績評価基準	定期試験	50%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題						
	演習	50%	計			100%	
授業到達目標の達成度	素点の平均が80点近くあり、日本語表現方法の基礎知識を身につけるために、受講生の大多数はまじめに努力したと考えられる。						
反省点	○受講生が100人前後なので、受講生の文章表現を添削する機会が少ない点。 ○学生たちの言語生活の実態を引き続き把握する作業を継続していくこと。 ○いわゆる「若者言葉・表現」が急激に変化している状況で、適切な「言葉・表現」とはどのようなものを考察していくこと。						
来年度の計画	テキストが例題一解説一練習と、構成がよくできており、受講者がテキストに対して意欲的に取り組むための動機付けに努めたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	「授業に刺激されて授業内容に興味を持つようになりましたか。」という項目のポイントが相対的に低い。日本語の面白さを、もっと受講生に伝えたい。						
履修登録者数	85名	定期試験 受験者数	84名	合格者数	83名	合格率	99%